

文化施設部会の展望と 今後の文化施設の在り方について



令和7年3月13日

●文化施設の範囲やその波及効果に関する主なご意見

- ・恒常的な施設だけでなく、テンポラリーな取組や仮想空間などの「場」も重要
- ・日本の強みとなるコンテンツ（建築、ファッション、マンガ等）の拠点施設も必要
- ・文化施設が新たな資本を生み出す存在に
- ・地域の文化環境は若者の人口移動に大きなプラス要素
- ・文化施設は、教育、健康分野等、他分野との組み合わせが大切

●文化施設の持続可能性、現在～未来への在り方に関する主なご意見

- ・文化施設を持続可能にするために、若手を含めて必要な人員を確保すべき
- ・施設を維持するためプロデュースのできる専門人材が重要。自治体や他施設等と繋いで考えていく必要
- ・文化施設内部の専門人材だけでなく、外的人员も人的リソースとして考えていく
- ・同じ文化施設でも、対象や地域特性、取組の類型に応じて、それぞれの施設で必要な要素が異なる

●社会状況の変化の中での地域／社会との共生に関する主なご意見

- ・文化施設を維持するには、社会や地域にとってかけがえのない施設であることが重要
- ・次世代に残したい、また来たいという層から、文化施設への寄付を得る余地あり
- ・評価は短期的にではなく、長期的に実施すべき
- ・文化は「活動」や「取組」ではなく、人々の生活そのもの

文化施設部会の見通し・展望

以下のとおり、今期・来期にかけて、文化施設部会の検討を取りまとめていくこととしたい。

第1期文化施設部会（令和6年度） 2回開催

第2期文化施設部会（令和7年度） 4～5回開催

・いずれかの段階で、委員による議論を踏まえ、事務局より報告書骨子・事務局案をたたき台として示し、さらに意見交換

・内容に応じて、団体・有識者等へのヒアリングを実施

第2期の中に、2030～2060年における文化施設（文化的活動が行われうる施設）の在り方に関する報告書を取りまとめ

報告書を取りまとめる際の留意点

・博物館、劇場・音楽堂等といった文化施設だけでなく、文化的活動が行われうる施設を幅広く対象とする。

・施設の理想的なあるべき姿を追うよりも、社会的な状況下において求められる対応・方策や考え方等について整理を行う。



文化施設とは

人間と文化的活動のための
空間・場としての文化施設

文化施設が直面する課題

社会的課題への対応強化
運営リソース等の限界への対応
従来の機能の充実

我が国社会の変化の下での 文化施設の在り方

社会変容と必要な機能（将来を
見越した合理化、最適化、付加
価値の最大化の模索）

文化施設の機能とアセット、強み

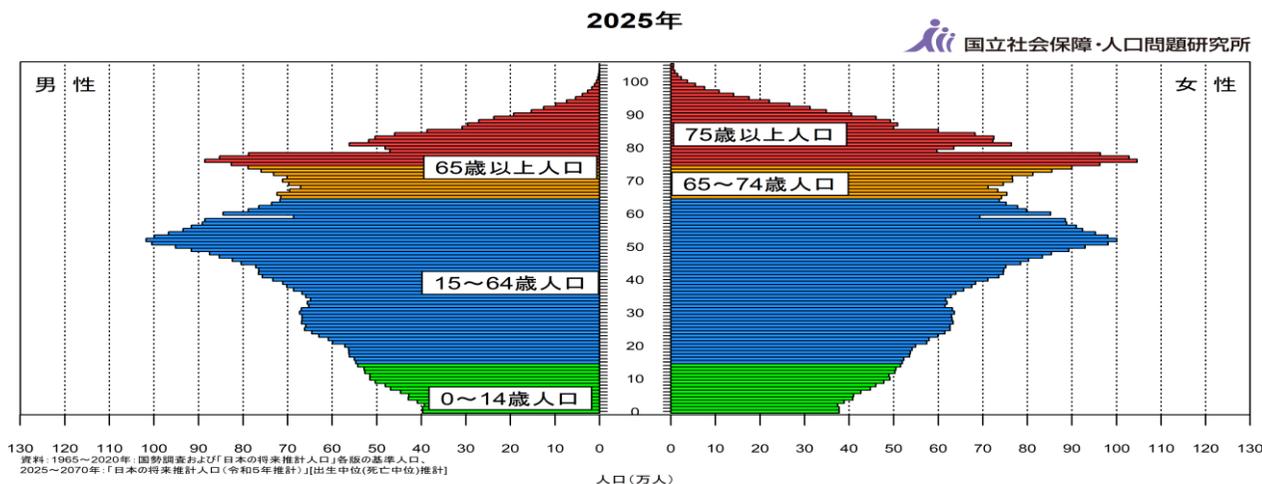
これからの社会、地域における施
設種横断的な多角的取組及びエ
コシステムの形成

多角的取組及び 大胆なネットワーク化の推進

ミッション設定、戦略・戦術の必要性
文化施設総体としてのネットワーク強化
外部人材活用、施設運営のプロ化
ハード整備の観点を含めた取組支援

我が国における2030年～2060年の社会情勢（人口）

2025年の人口推計
123,262



2030年の人口推計 → 2040年の人口推計 → 2050年の人口推計 → 2060年の人口推計

120,116 **112,837** **104,686** **96,148**

※いずれも出生中位(死亡中位)推計 単位：千人
国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料集(2023)改訂版 より引用

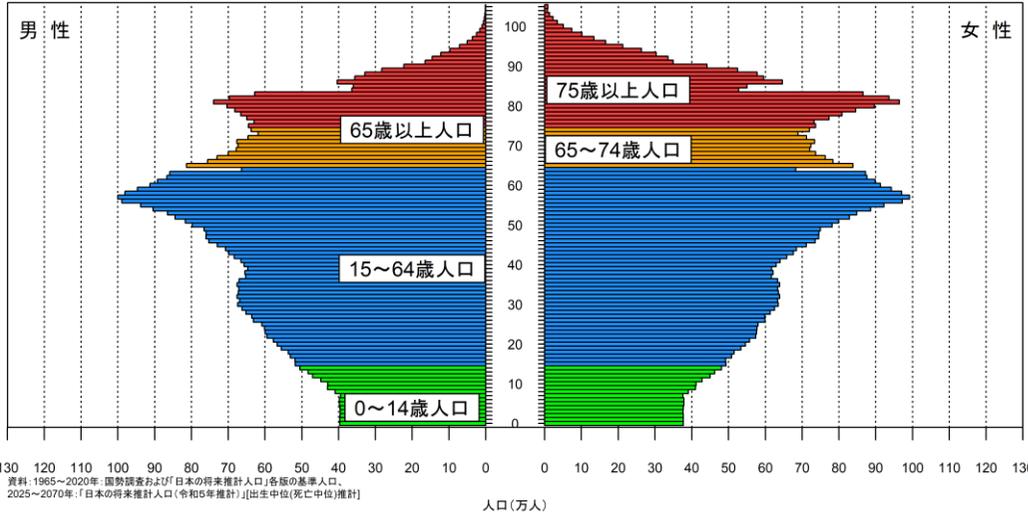
	0～14歳人口比率	15～64歳人口比率	65才以上人口比率
2030年	10.3%	58.9%	30.8%
2040年	10.1%	55.1%	34.8%
2050年	9.9%	52.9%	37.1%
2060年	9.3%	52.8%	37.9%

国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』（令和5年推計）[出生中位(死亡中位)推計値]による。

我が国における2030年～2060年の社会情勢（人口）

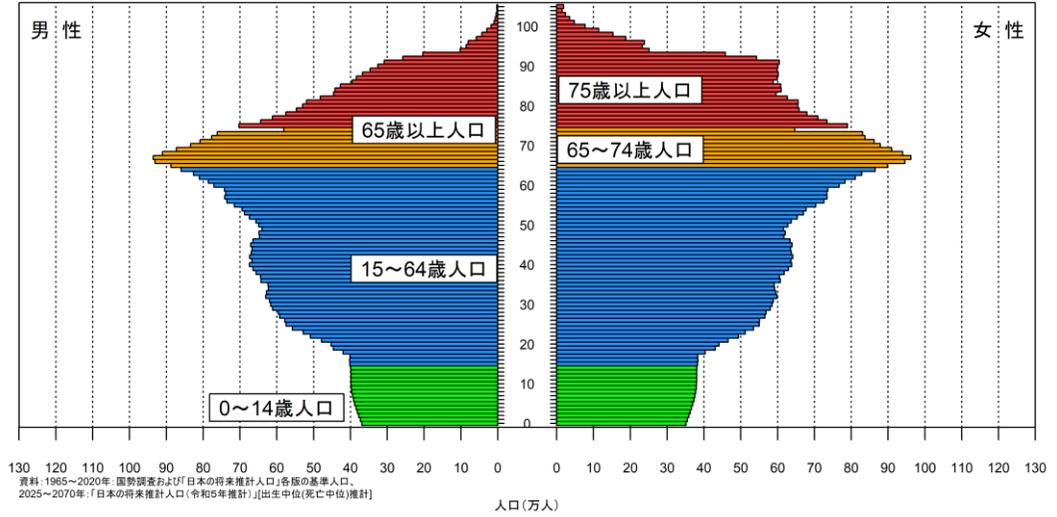
2030年

国立社会保障・人口問題研究所



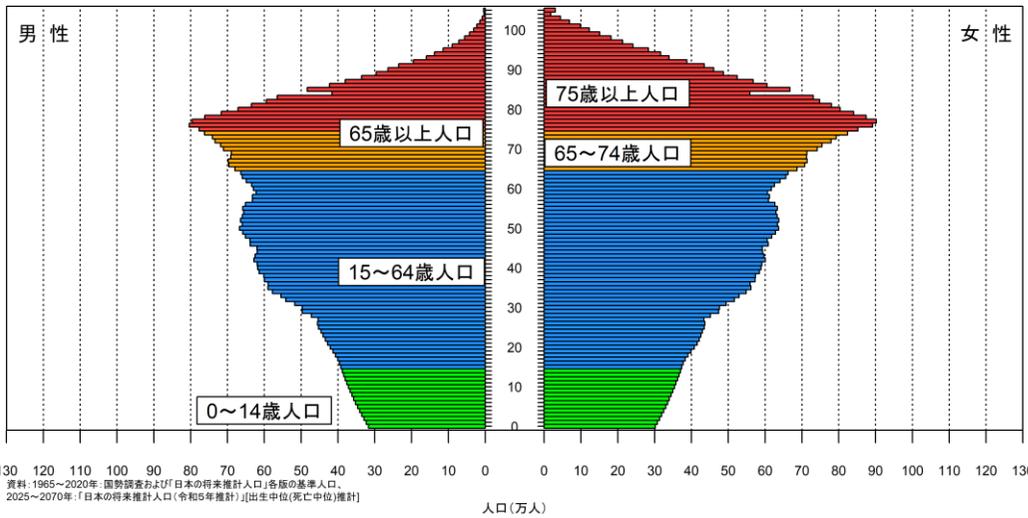
2040年

国立社会保障・人口問題研究所



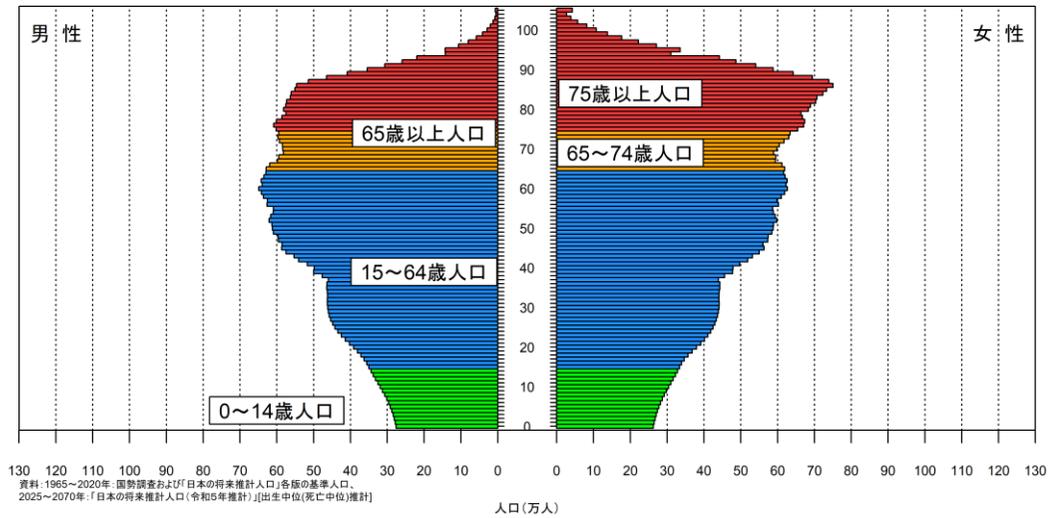
2050年

国立社会保障・人口問題研究所



2060年

国立社会保障・人口問題研究所



出典: 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ (<https://www.ipss.go.jp/>)

人口減少下におけるコンパクトシティ化の可能性

コンパクトシティとは？

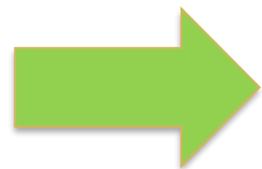
拡散した市街地をコンパクト化して都市の持続可能性を確保する集約型都市構造



- 生活サービス機能(文化施設も含む)と居住を集約・誘導し、人口を集積。
- 居住や都市機能の集積による「密度の経済」による、生活利便性の維持・向上、地域経済の活性化、行政コストの削減などが可能。
- 居住を公共交通沿線や日常生活の拠点に緩やかに誘導し、人口集積を維持・増加させ居住と生活サービス施設との距離を短縮することにより、生活サービス施設の立地と経営を支え、市民の生活利便性を維持。

コンパクトシティ化が文化施設に与える好影響

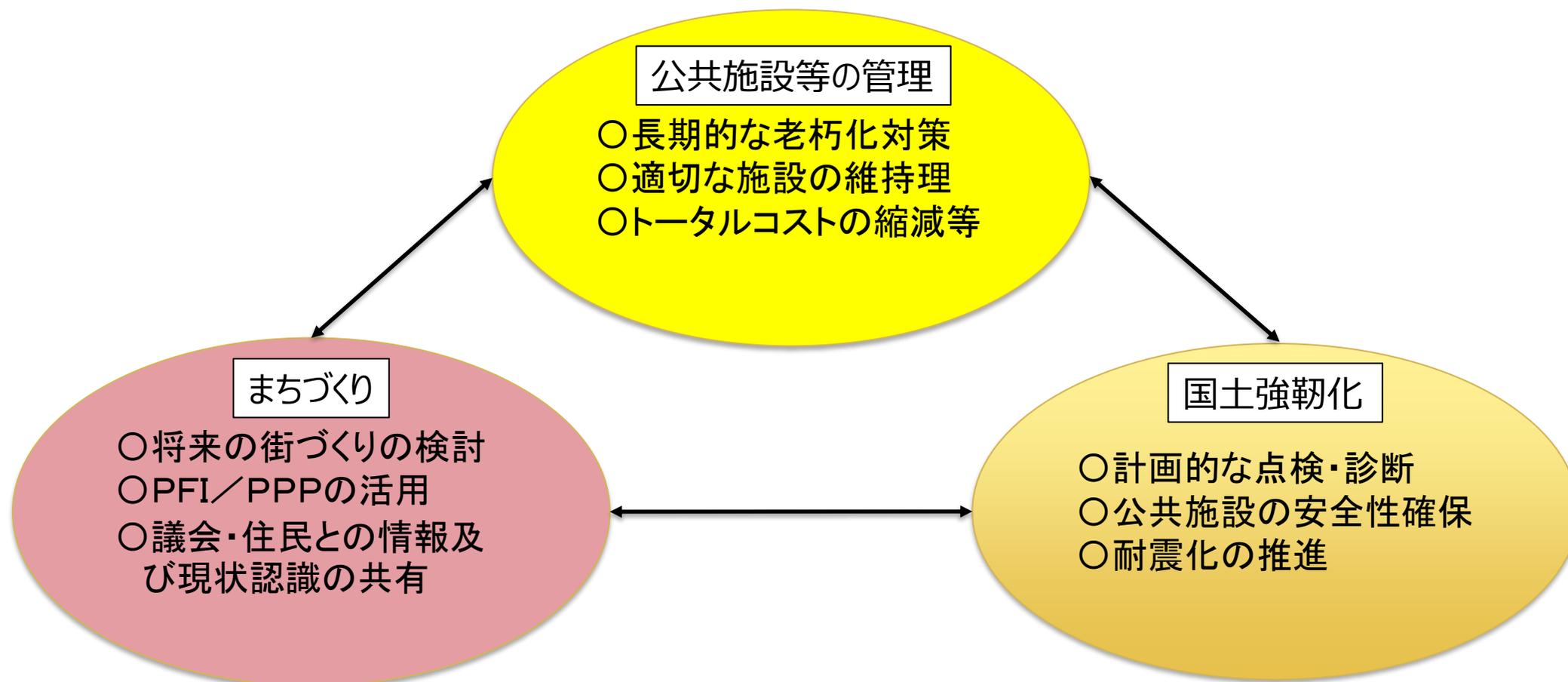
- 今まで「点」で存在していた各文化施設を「面」で捉えることにより、「面」内の網の中において高密度に連携し合うことにより、シナジー効果が得られる。
- 集約型都市の中に互いに近距離に文化施設が存在するため、各施設間の相互利用促進に繋がりがやすく、文化施設がより一層身近な存在になる。



人口減少下における文化施設発展の可能性

公共施設等総合管理計画について

- ・過去に建設された文化施設を含む公共施設が今後大量に更新時期を迎えるも、地方財政は厳しい
- ・人口減少下において今後の文化施設を含む公共施設の利用需要が変化
- ・過去に建設された文化施設を含む公共施設が今後大量に更新時期を迎える
- ・文化施設の集約化・複合化による機能集約・再構築



少子高齢化の一層の進展の中 人口減少下での文化施設における必要な視点

- ・各文化施設が広域に補完しあいながら流動的に連携を図る
- ・地域資源・地域人材の育成・充実・活用を図る
- ・地域経済、地域文化を、持続的な地域振興に繋がる仕組みを構築する
- ・各文化施設の持つパワーを最大限有効活用し、潜在力を発揮する
- ・新たな利用者層の開拓により、文化施設の利用を促進する



各文化施設が必要な視点に基づき取り組むことで、個々人の Well-being の向上、文化施設全体の発展・付加価値の向上、地域社会の活性化へとつながる



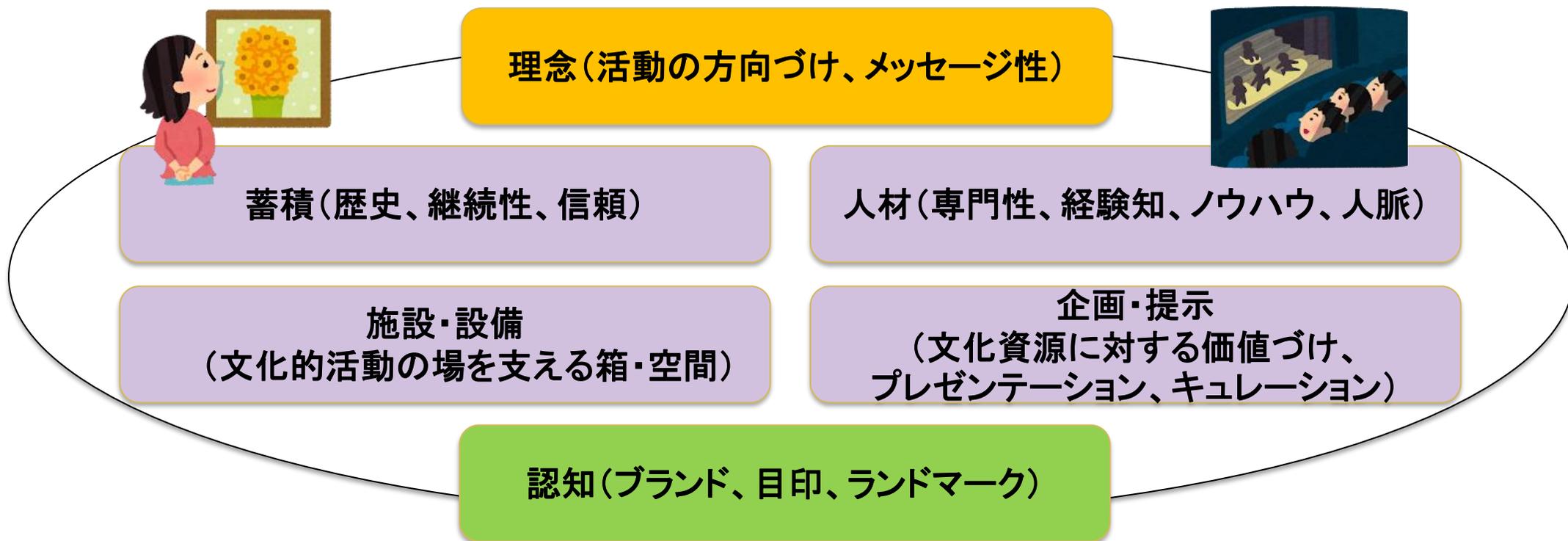
文化的活動が行われる場

都市・地域内の様々な場所で文化活動が行われている。
箱としての施設、資料や作品群、人材、市民を含め
全体で文化施設としての価値を発揮している。



文化施設の機能とアセット②

- ・文化的活動・体験は、館に限らず/留まらずに行われうる（デジタル、テンポラリーなものも含め）
- ・しかし、そこに館が定常的に存在することによって可能になる部分があるのではないか。
- ・例えば、以下の点に着目すると、単なる施設の管理・運営ではない文化施設の本質的な機能が明らかになるのではないか。



- ・これらは文化施設（館）が地域・他施設に対して提供できる価値とも言い換えられる。
- ・こうした文化施設の強み・アセットを柔軟に活用していくことで、さらに価値を発揮していく余地があるのではないか。



（ふれあい広場）祭りを語ろう
（にぎやか舞台）爽りを祝う
（ごちそう屋台）旬を味わう

ふじみの大地の収穫祭

第七回

2024年
11月23日（土・祝）
午前10時～午後3時
入場無料

主催
ふじみ大地の収穫祭実行委員会
公認協賛 法人キラリ倶楽部
協賛
富士見町、ふじみ町、
富士見町工業会
富士見町商工会
●企画
富士見市民文化会館
キラリ☆ふじみ

祝う、味わう、語り合う！
今年の秋、キラリふじみで大地の恵みを
味わい尽くしてみませんか！

KIRARI FUJIMI

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの例

文化施設を使用した農業収穫祭等を実施

「公演（創造）事業」、「教育普及事業」、「市民交流・支援事業」を柱とした文化施設である富士見市民文化会館にて、地元富士見市産の農業収穫祭を実施。

旬を味わう「ごちそう屋台」や野菜などの販売、地元で伝わる伝統芸能の体験や上演企画など、広く市民が文化施設を通して交流し、地域の繋がり、発展に取り組む。

農と文化施設の融合により、地域農業のさらなる発展と理解醸成及び文化施設の効果的利用による相乗効果で地域文化の発展に寄与する好事例。





可児市文化創造センター-alaの例

文化施設を活用した障がい者等も参加するディスコ

障がい者等も含めた誰もが同じ空間でダンスをすることで、共生社会の豊かさを感じることが出来る企画。

普段舞台芸術に触れる機会の少ない障がい者等と、プロダンサーや地元の高校ダンス部、シニア層の市民など多様な市民がディスコに参加し、誰もが自分を自由に表現できる企画。それぞれの違いを豊かさとして感じることができ、共生社会の実現に貢献。

ディスコと文化施設といった一見繋がりの無いような両者を融合させ、新しい「居場所」を提供することで、社会的孤立の社会課題にも対応。

文化施設における新たな可能性を創出する好事例。



伊丹市昆虫館の例

《鳴く虫と郷町》企画による地域活性化

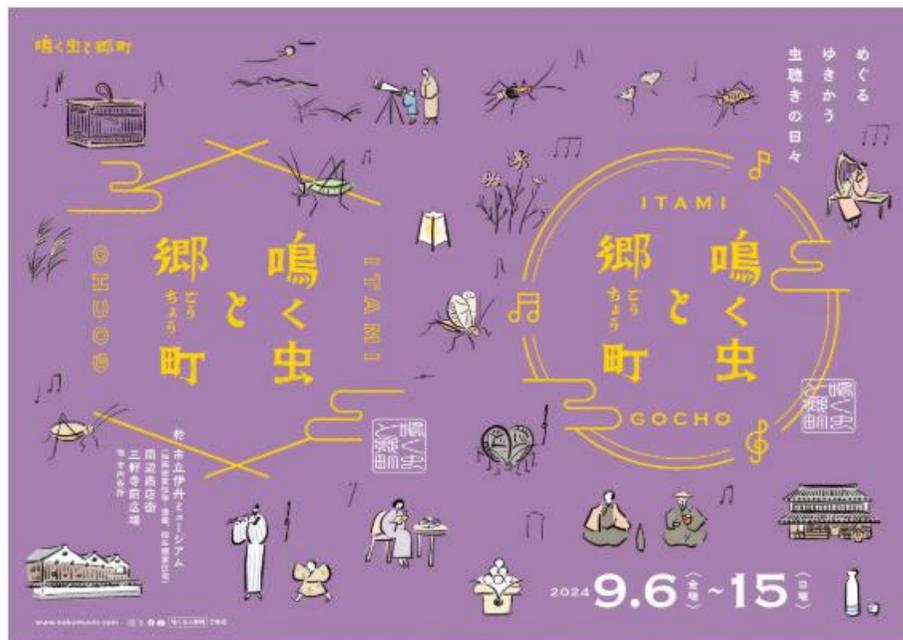
定番の企画展を館から市中心地へ移動して開催したところから企画がスタート。19年目となる2024年は、コンサート、ラジオ、歌会、茶会、星見会、古本市、飲食イベント、限定グッズの販売など、伊丹駅周辺で計78件の関連イベントが行われた。

関連イベントの一つ「むしむし☆ナイトフィーバー」では、市立演劇ホールと連携し、舞台照明を活かして懐中電灯で観察する昆虫展示を実施。

文化施設が自館の専門性・資料の特性を活かしながら、施設類型を超えて連携し、地域のコミュニケーションを促進しながら地域の活性化に貢献している好事例。

令和6年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修 伊丹市昆虫館資料より

<https://www.itakon.com/>



宝塚ぼうさい劇場 2024

防災訓練と創造体験をみんなで体験しよう！
今年、かえっこバザール（オモチャの交換会）も同時開催！！

イベント詳細は右の特設サイトをご覧ください
<https://takarazuka-c.jp/topics/t-bek/bousai2024.html>

学んで体験してかえるポイントをゲット！
かえるポイントを集めてオモチャと交換してネ♪

いざという時のための避難訓練コンサート

イベント中に「火事だ！避難だ！」

時間 10:30～11:00 (10分前開場)
定員:100名 先着順

演奏 宝塚アカデミー音楽団

公演中に火事が起こりますので、一緒に避難訓練に是非ご参加ください。避難後の「ぼうさい」上映会とお話に併せてご参加いただいた方にはプレゼントがございます。

ぼうさい上映会とお話『急な大雨・雷・雹巻から身を守ろう!』(映像提供:気象庁)
時間 11:20～11:50 (避難訓練後に引き続き開始します)

人形劇『まてまて小僧』
(人形劇団クラルテ)
時間 13:15～13:45 (10分前開場)
定員:120名 先着順

『防災王〇×クイズ』
(宝塚市総合防災課)
時間 14:30～15:00 (10分前開場)
定員:80名 先着順

公園体験コーナー
時間 10:30～12:00 / 13:00～15:00

- ★子ども用防火服
- ★防災あそび(持ち出しゲーム)
- ★消防体験 ★消防車見学
- ★防災備品確認会

詳しくは、イベント特設サイトでご確認ください。また、避難訓練の参加費は無料です。内容も変更する場合がございます。ご了承ください。

かえっこバザール
(あそびなくなったオモチャの交換会)
時間 10:30～12:00 / 13:00～15:00

時間: 10:30～15:00 (最終受付 14:30)
会場: 宝塚文化創造館 1階 講堂ホール
宝塚花のみち・さくら橋公園

2024 9/29(日) 参加無料

宝塚文化創造館 宝塚市武庫川町6-12

宝塚文化創造館の例

文化施設を使用した防災訓練を実施

音楽団によるコンサート公演中に模擬火災を発生させ、避難訓練を実施。

同時に、近隣自治会や市民団体などと協働して防災上映会、人形劇、防災クイズなども併せて実施するなど、文化施設が市民の防災意欲向上に広く貢献している。

日頃文化施設になじみのない市民も文化施設に触れ合うことで、まちの中心としての文化施設に理解を示し、市民との双方向の理解醸成に貢献。文化施設がまちの中心として機能する好事例。

主催：(公財)宝塚市文化財団・宝塚花のみち自治会
協力：宝塚市消防局、「みんな元気にあそぶ・びっくり箱」実行委員会、宝塚・防災リーダーの会、Let's むこきゃん実行委員会
後援：宝塚市・宝塚市教育委員会 イベントお問い合わせ 宝塚文化創造館 0797-87-1136



「劇場が設置されている商業施設リバーウォーク北九州」



J:COM北九州芸術劇場の例

**劇場を中心として、多様な分野と連携しながら
地域の発展を目指す文化施設**

2003年に開館した北九州芸術劇場では、北九州に「劇場文化を育む」というミッションの下、「観る」「創る」「育つ」「支える」という4つのコンセプトに沿って、多様な事業を展開することにより、市民の文化活動を支援し、地域社会及び地域文化の発展に貢献している。

また、文化・観光・商工・教育・福祉・スポーツ・交通など多様な領域が連携することで街の課題を解決し、新しい価値や魅力の創出に努めており、舞台芸術の持つ創造的な力を活かした新たな街づくりに挑戦している。

文化施設が街の発展や諸課題解決に取り組むなど街と有機的に連携している好事例。

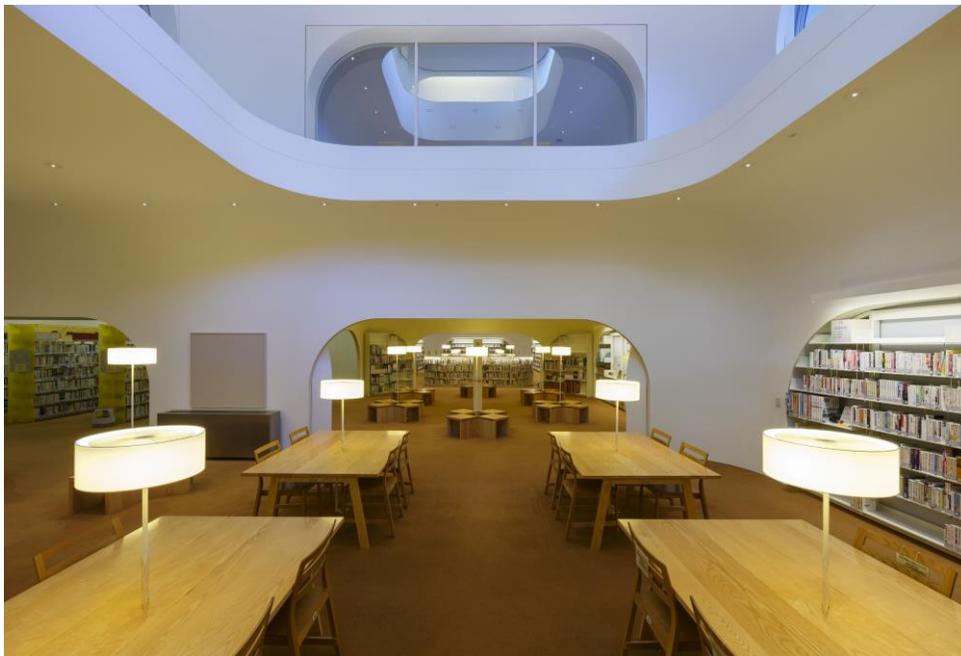


武蔵野プレイスの例

図書館を軸とした複数の文化施設機能を融合した複合機能施設

図書館、生涯学習センター、市民活動センター、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会（まち）の活性化を深められるような活動支援型の公共施設となっている。

滞在型図書館、生涯学習支援機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能の四位一体で、交流ネットワークの活性化、地域社会の魅力向上、市民生活の向上に貢献。文化施設が街の発展に大きく貢献する好事例。



武蔵野プレイスHPより <https://www.musashino.or.jp/place/>
(写真提供) 武蔵野プレイス

社会が様々に変容する中で、文化芸術・知識へのアクセスが人々の尊厳ある生活に欠かせない要素であることを踏まえつつ、文化施設に投入可能なリソースに限界がある中、将来を見越した合理化や最適化、付加価値（潜在力）の最大化を考えることも必要ではないか。

社会変容の主要要素

以下のような要素が複合的に関与し、
社会変容へとつながる

- 人間知性の進歩
- テクノロジーの進化
- 価値の変容
- 人口規模

社会変容に対して考えられる 文化施設の対応

- 展示・公演・研究等の磨き上げ
- 文化的資源の付加価値の向上
- 時代のニーズに即した企画
→社会に認知される文化施設
- 人口規模に即した合理化・最適化

より高次で機能的な文化施設に

文化施設の持つ（持ち得る）機能を最大限に活用

- 資料や作品の収集、研究、制作、展示、公演、発表、教育（歴史・知見の発掘・蓄積）
- 社会的・文化的価値の発信・提示（キュレーション、インスタレーション等）
- 地域の核となり市民を結びつける場（地域維持、保安、地域の集合場所）
- 人間性を涵養、表現する場